

令和3年度 学校評価表

学校教育目標	この島に生まれ育った誇りと自信を持って、学び続ける生徒の育成		
ミッション	地域の強みを生かした小中高連携による瀬戸田教育の発展	ビジョン	今年度はコミュニティースクール元年である。小中学校の連携の充実を図り、学校運営協議会の機能化をめざす。島の未来を担うのは中学生を合言葉に、SDGsを共通言語に地域等と連携し、持続可能なまちづくりに貢献する。福山市立大学等の指導を仰ぎ、取組の充実を図ることで2年後にユネスコスクールへ加盟し、志を同じくする世界の学校と連携する。

尾道市立瀬戸田中学校

評価計画				自己評価				学校関係者評価			改善計画			
中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価指標	目標値	7月	1月	達成率	評価	結果と課題の説明	二次評価			改善案	
				達成値	達成値	イ				ロ	ハ			
知	主体的に学ぶ生徒	1 教師の授業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート項目「先生の授業は分かりやすい」の評価80%以上 生徒質問紙「主体的な学び」に関する項目の肯定的回答80%以上 全教科1回授業研究実施 	80%	90.8	71.6	113.5	A	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的回答は90.8%であった（前年度7月比+8.7ポイント）。ICT（タブレットPC）を用いるなど企画に即した指導に取り組みしており、成果が表れてきている。 肯定的回答は71.6%であった。校内研修で「主体的に学習に取り組む態度」を育成する手立てを交流するなどして授業改善を行っている。目標値に達してはいないが、上述のICT活用などの授業の工夫によって、前年度は意欲が感じられた生徒も学習意欲にも向上が見られるなど、取組が実を結びつつある。 年度末に評価する。 	7	1	1	<ul style="list-style-type: none"> 「授業がわかりやすい」と回答した生徒の割合は目標値を超えていたが、学力到達の結果等を見まると、十分に学力が伸びている生徒も多い。「授業がわかる」という実感だけでなく、実際にテストなどでできる」力をつけさせるためにも、基礎学力の定着が重要である。ICTの活用だけでなく小テストなどを継続的に取り、達成感を持たせるとともに、基礎学力の確実な定着を目指す。 タブレット端末の整備によって、指導法の可能性も広がっている。生徒アンケートにおいても、タブレット等を用いた学習方法は意欲を向上させるという回答を得ている。引き続き校内研究授業でICTを用いた指導法について理解を深め、生徒の主体的な学びにつなげられるようとする。 	
	徳・体	心身共にたくましい生徒	1 ボランティア活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会の活性化とリーダーシップの養成 	なし	なし	なし	なし	なし	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス対策でボランティア活動が中止になるなど、機会が待たれずうちは評価していない。 	7	1	1	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会が中心となって、今の状況でもできる地域貢献活動やボランティアを立案し実行する。 運動会（10/29）文化祭（11/5）演劇鑑賞会（11/15）において、生徒の意見を生かした取り組みを行う。 ソーシャルスキルトレーニングを実施する。 ボランティア参加率100%の指標の継続的な実施を目指す。 「部活動」である「festotagram」セトスグラムの活動を活発に行い、生徒の活躍を全体に発信することで生徒の自己有用感の育成を図る。 新伝大会に向けて練習の活性化、一歩懸命やることが認められる場を全校朝会などでつくる。
			2 自己肯定感の向上	<ul style="list-style-type: none"> スクールソーシャルトレーニングの継続 行事の事前・事後の活動の充実 	80%	75.3	94.1	B	<ul style="list-style-type: none"> 「自分にはよいところがある」「自分のよさは周りが認められている」について肯定的回答は75.3%であった。ソーシャルスキルトレーニング（以下SST）は8月実施予定である。また、行事は見えにくいが行うことができなかった。状況に合わせた行事の実施や、継続的なSST、SC面談を行う必要がある。 					
3 体力向上等に励む生徒			<ul style="list-style-type: none"> 部活動の参加率 	80%	83.5	104.3	A	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的回答は83.5%であった。目標を持って活動している生徒が多く、顧問も積極的に部活動に加わる雰囲気、成果につながっていると考えられる。 						
信頼される職員	自校を誇りに思える生徒と心身ともに健康で生き生きと職務に邁進する職員	1 ぶるさと学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> 「総合的な学習の時間」の充実 積極的な情報公開 	80%	81.6	90.2	102.8	A	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的回答は81.6%であった。1年生の瀬戸田レモンプロジェクト（SLP）ではしモンを使っ底給養メニューづくりに、2年生は海外の学校との交流、3年生は地域のカルタづくりを通じて地域の強みや魅力を発見し、発信している。 肯定的回答は90.2%であった。1学期のホームページの更新は33回で、継続的に情報の発信に努めている。また、各種よりやメールで、必要な情報を早急に伝えるようにしている。 	7	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ぶるさとについては、量よりも質に注目したい。不登校対応のための特別教室や専攻の先生が居られたいと思う。 職員の時外労働も、60〜70時間にしてはどうだろうか。 生徒の良い面を引き出し伸ばすためのアイデアが生まれるような評価を期待したい。 自己や生徒の健康管理に集中できる様、雑務削減の徹底を願いたい。 先生方が生徒と一緒に花壇づくり、環境整備に携わられていることを願っている。変わっていく学校に向上を期したい。 ユニークな取組はともよいと思う。故郷の良さと課題領域を共有し、将来の備として自分ごととして取り組む生徒の確保も考えてほしい。 情報公開について、例えば地域や行政への発信もあるといいと思う。 生徒のホームページも保ちつつ働きがいのある職場が一層だとと思う。 目標値に近い成果が得られる。継続していただきたい。 	
		2 働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> 時間外労働の縮減 職員の時間外労働80時間/月以下 	80%	88.2	110.2	A	<ul style="list-style-type: none"> 目標を達成した教職員は15名/17名であった。年休取得を奨励する時間を設けたり、時間割を工夫したことで働き方改革を推進している。業務の適切な分担で全員が目標達成を目指す。 						
校区スタウンダード	家庭での約束事項（9年間を通じての小中共通目標）	1 基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者アンケート項目で習慣化できている生徒の割合80%以上 	80%	82.2	90.2	102.8	A	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的回答は82.2%であった。遅刻をする生徒が少なく、各生徒の生活リズムを整えるために、家庭との連絡を積極的に行う。 肯定的回答は、「挨拶」が90.5%、「掃除」が91.3%、「挨拶」が93.5%であった。授業の2分前席席の声かけをしたことが効果につながった。自分から挨拶する生徒が少ないので、生徒会を中心に改善をしていく必要がある。 	7	1	1	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習、読書の習慣、新聞活用は、学力の定着と相關がある。重視したい。 バスの中で小学生に優しく声をかけた中学生の話しを耳にした。そんな姿が小学生も真似ていくのだろうかと思う。感謝の気持ちでいっぱい。 家庭や地域で感謝学習に協力できることがあれば、積極的に発信してほしい。 前回の達成率を参考に、もっと目標値を高く設定すべき。 ミッション達成の課題に特化したソングなど目標に立ててみるかどうか。 読書活動推進指定校として校内ネットワーク、朝読書で読書習慣形成プロジェクトで読書活動を取り組んでおり、生徒が楽しみている様子も伝わってくる。色々なことに取り組んでいると感じる。 小中学校で「1日読書活動」取組むことは、とてもいいと思う。 読書活動が読書の習慣も取り入れるといいと思う。 コロナ禍の影響も考えて、生徒によりきめ細かい配慮をお願いしたい。 	
		2 あいさつ・返事等	<ul style="list-style-type: none"> “時を守り場を清め礼を尽くす”の行動化 	80%	68.4	85.5	B	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的回答は68.4%であった。遅刻をする生徒が少なく、各生徒の生活リズムを整えるために、家庭との連絡を積極的に行う。 						
		3 基本的な学習習慣の確立（家庭学習と読書の習慣化）	<ul style="list-style-type: none"> 全学年でセミナー学習を実施 新聞の活用（読書活動推進校） 	80%	68.4	85.5	B	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的回答は68.4%であった。遅刻をする生徒が少なく、各生徒の生活リズムを整えるために、家庭との連絡を積極的に行う。 						

【自己評価 評価】

A：100≦（目標達成）

C：60≦（もう少し）<80

B：80≦（ほぼ達成）<100

D：（できていない）<60

【外部評価】

イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。

ハ：わからない。